

ゴ（南方系の魚で近年増加）による食害とアカエイによる洗掘、砂の移動があげられている。漁業者の協力のうえ、今後有効な対策を検討したい。また、豊かな海の再生には森を守る事が大事であり、今後も植林活動を続けていく必要がある。

海岸漂着物については、今年度は、観光ルートを主に4千万円の経費を投じて処理する。

(2)耕作放棄地の対策については、耕作放棄地交付金事業により、今年度、美田・小向地区の耕作放棄地1haを整備し、畜産振興の観点から飼料畑に活用する。

今後は、船越の犬地区、大山区を対象に耕作放棄地の解消を図るとともに、この様な農地を増やさない取り組みが必要とされている。

(3)森林については、復興公社による分収林事業で植林を行っている。今年度から新規で、「ふるさとの森再生事業」を活用して5カ年で10haの植林を計画しているが、森林の放棄は深刻な状況にある。

抜本的な対策が近い将来必要になってくると思う。自然環境の保全、再生に関する事業は着実に実施して

いくが、町ぐるみで取り組む問題であり、そのけん引役となる人材確保も今度の検討課題としたい。

質問2 集落道の整備について

集落内道路は、日常生活の利便性の確保や緊急時の避難経路として重要な役割を担っている。そこで地区内の集落道の整備の現状と、今後の改良・整備計画について伺います。

回答 町長

近年では、浦郷、美田地区の漁業集落環境整備事業の中で、条件の整った所から道路拡幅や排水路などの整備を実施している。

また、社会資本整備交付金事業では、波止地区の町道改良工事が完成し、平成25年度からは、由良地区（町道55号）と別府地区（町道25号）の集落内の道路拡幅に着手する。

幹線道路では、町道大山区の継続と新規で町道三度線の急カーブの改良工事などを計画している。

今後は、地域の方々と意見交換を行い、協力を得ながら随時、改良・整備を進めていきたい。

中上 省三 議員

質問 隠岐汽船フェリーの自動車航送運賃について

フェリーの航走区分は1m区切りになっているが、0.5m区切りに区分すれば往復運賃が軽自動車で3万円を切り、普通車で4万円を下回る運賃になるので、4カ町村の統一した意見として隠岐汽船へ要請してはどうか。運賃が安くなることにより、フェリーを利用し易くなり別府港駐車場の満車状態も少しは緩和されると考えられるが、見解をお尋ねする。

回答 町長

フェリーの車両航送運賃については、国土交通省のガイドラインがあり、その中で料金設定が煩雑となることや利用者の混乱を避ける意味から、1m刻みとするよう事業者に対して中国運輸局から通知がされている。また、隠岐汽船が航送区分を0.5m刻みにすると、運賃が少なく徴収されることになり、隠岐汽船の経営にも響いてくる。

そうするとどうしても旅客運賃にはね返ることになってくる。また、駐車場の件については、観光協会が

斜め前に県所有の緑地帯があり、駐車場として確保した。全体としては20台程度増える予定である。

安達 静香 議員

質問 西ノ島小学校加配職員について

西ノ島小学校の加配職員、支援員の来年度以降の配置はどうなっているのか。先生方の突然の休暇等に対応するためにも、加配職員の必要性も含めて伺う。

回答 教育長

平成25年度の西ノ島小学校の学級数は7学級であり、校長、養護教諭、事務職、栄養士を除いて教員数は8名のところ、県の配当基準でへき地6、7学級の児童数75名以上の場合には、1名増員で9名が配置される予定で現状維持の見込みである。

支援員については、町独自の施策として平成25年度も継続配置することとしている。また、出産、育児休暇、不慮の事故、緊急入院等、休暇が出た場合の対応については、県教委とも連携し速やかに人材が確保できるように補充対応をしていきたい。

西ノ島町議会

広報調査特別委員会

島前病院だより

西ノ島のみなさんこんにちは。この4月から島前病院で勤務をしています福田聡司(ふくださとし)と申します。

出雲市出身で、出雲高校↓宮崎大学医学部↓島根県立中央病院と流れてきて、この春から島前病院での診療を担当しています。県立中央病院では消化器・内視鏡内科に所属していましたので、一般内科とともに消化器内科にも力を入れて診療を行っています。

通常の風邪や肺炎から心不全、糖尿病、高血圧などにはもちろん力をいれて診療しますが、胃力メラ、大腸力メラ、腹部超音波検査に関してはこれまでの5年間中央病院で培ってきた知識と技術で真摯に対応させていただきます。

私は今年31歳になります。少し人見知りなために、初対面では少し無愛想な対応に見えてしまうかも知れませんが、頑張ってる島の方々にもなれる

ようにします。

できれば話しかけていただければ大変喜びます。

趣味は釣りりと料理、ドライブです。愛車はスカイラインで、西ノ島を疾走しております。

これまで春や夏の島前病院では1ヶ月や2、3日研修・代診で働いたことがありますが、秋冬のこの島の魅力はまだ未体験で、今から期待と不安の入り交じった複雑な感情を感じています。

勤務を始めてからまだ1ヶ月で、慣れないことも多いですが、今後慣れてくればもっともっと島の生活、島前での診療を楽しむことができるのではないかと思います。

これから皆さんに信頼してもらえらる医師となるべく精進して参りますので、どうかよろしくお願ひします。



福田 聡司

集落支援活動日誌

お世話になっております。集落支援員の井上志朗です。

今年度も引き続き、買物等支援バスの運行、社会福祉協議会主催の健康サロンや子育てサロン等に参加させていただき、参加者の方々から、西ノ島町で暮らす上で困っていることや取り組んでいる活動などを聞かせていただいています。参加させて頂いているサロンでは、集落支援員を認知していただけるようになり困っていることに限らず、方言の話や地域の状況、地区の昔の様子など様々な内容のお話を聞かせていただいています。その中でも、前回の活動日誌でお知らせした空き家についても関心を持たれ、「今は、問題がないが、自分がいなくなった後は空き家になるので、そのことも今から考えておかないといけない」、「今、親戚の空き家を管理しているが、私も年をとり管理が出来なくなってきた。」と言った声をいただくことがあり、多くの方に空き家への関心も持っていただけたように思います。

買物等支援バスの運行では、火曜日と木曜日の週2回ある宇賀方面買物等支援バスのなかで木曜日の運行を行っています。そこでは、「若いときは、歩いてどこでも行っていたが、今は歩いてどこでも行くという事は出来ないのです、このバスがあって助かっています。」と言われま

す。また、西ノ島の昔の暮らしについてもお話をさせていただけるなど、昔の様子を聞かせていただいています。いつも乗客のみなさんと楽しい会話でバスの運行を私も楽しんでいきます。

これからも、楽しい会話ができる楽しいバスでありたいと思います。

最後になりますが、もし、町で見かけることがあればいつでも声を掛けて頂けると喜びます。今後もよろしくお願ひします。

